

## 乳児健康診査における質問項目に対する解答の分析

渡辺 言夫(杏林大学小児科)

松田 博雄(       "       )

広沢 浩(       "       )

### 目的

乳児健診における母親の質問事項と、母子健康手帳(母子手帳と略す)の月齢別質問項目に対する解答を分析し、小児保健と乳児健診の実地に資することを目的とした。

### 対象及び方法

最近1年間に八王子市某病院を乳児健診のために受診した乳児のうち、1ヵ月健診497例、6~7ヵ月健診350例、9~10ヵ月健診256例、計(延べ数)1103例である。同一の乳児がこれらの時期に継続して健診を受けているわけではない。出生体重2500g未満の者が16例含まれているがいずれも満期産であった。

方法は、母親に、訴えや心配となっていることを問診し、母子手帳の質問項目に解答を記入してもらってから診察を実施した。

### 結果

1ヵ月健診時の母親の質問・訴えは46項目に及んだが、上位15項目は次の通りであった。数字は頻度、括弧は全質問数に対する百分率を示した。

湿疹・発疹133(30.5%)、鼻づまり・鼻汁81(18.6%)、おむつかぶれ30(7.1%)、喘鳴30(7.1%)、便秘27(6.2%)、前額部・上眼瞼の赤い斑25(5.7%)、嘔吐25(5.7%)、便秘25(5.7%)、咳19(4.4%)、哺乳量18(4.1%)、目やに18(4.1%)、黄疸18(4.1%)、ケップが出ない17(3.9%)、追視しない12(2.8%)、手足のふるえ12(2.8%)。

湿疹や発疹があるという訴えが最も多く、このうち19例が湿疹であったが、

他は脂漏や脾粒腫であった。喘鳴30例のうち2例は比較的重く、小児科専門医のフォローを必要とした。追視しないという12例は、健診時に時間をかけて上手にチェックすると9例が追視し、残り3例は3ヵ月健診では正常な発達を示していた。

母子手帳にあげられている1ヵ月健診のチェック項目のうち、「いいえ」が最も多いのは「目の前で手を動かすとそれを目で追いますか」という項目であった。497例の解答について、追う197(39.6%)、追わない124(24.9%)、わからない176(35.4%)であったが、追わないと答えた母親のうち12名は積極的にこれを訴え、視力障害や、中枢神経障害を心配して泣き出す者もみられた。

6~7ヵ月健診のチェック項目の中で「いいえ」という解答が多かったものは「寝がえりをしますか」という質問に対してであった。350例のうち寝がえりできないものは61例(17.1%)であった。健診の季節を冬季(12~3月)と夏季(7月~11月)にわけ、お座りとの関係が明らかなものについてみると、お座りができるようになってから寝がえりをしたものは冬季では80例中17例(21.3%)、夏季では97例中13例(13.4%)であった。すなわち6~7ヵ月健診の時期が冬季であるものは寝がえりがおそいという結果になる。体重との関係は検討しなかった。

9~10ヵ月健診時の質問事項については「ハイハイをしますか」という項目に「いいえ」と答えたものが多かった。256例のうち「はい」と答えたもの182例、「いいえ」74例であった。

9ヵ月児のハイハイの実態を調査した結果、256例について、quadropedal walking 189(73.8%)、そのうち前進するもの170、後退するもの19で、この19例のうち12例の母親がハイハイはできないと解答している。

clawling または hauling は21例(8.2%)で、このうち前進10、後退いで、前進7、後退9の母親がハイハイはできないと答えている。shuffling は36(14.1%)、背臥位で足をつばって頭の方に移動するスタイル4(1.5%)、back arching 2(0.7%)、rollover 4(1.5%)であった。quadropedal walking でも前進するまで数週間は後退する児も少なくない。

ハイハイができるかという質問に対する解答は、このように母親によってハイハイに対して認識の違いがあることを示している。

backarching型のうち1例は39週2200gで出生し、1歳2ヵ月になってつ

たい歩きをはじめ、rollover の1例は38週3062gで出産し、1歳1ヵ月になってつたい歩きを開始した。

#### 考按

母子手帳の発達チェック項目で「いいえ」と解答される場合が多い項目について検討したところ、1ヵ月健診では追視が、6～7ヵ月健診ではハイハイが対象となった。

育児書や乳業会社で作製した乳児検診参考資料にはDenverの発達テストが記載されていることが多いようである。例えば寝がえりについてみると、Denverのものでは4ヵ月の後半には90%が可能となっているが、上田らの日本人乳児の発達テストでは7ヵ月までに90%が可能になると示されている。このため、本研究で対象となった項目については、日本の乳児で、その月齢に何%ぐらいのこどもがまだできていないのか、という記載が必要かともおもわれる。

#### 結論

(1) 1ヵ月健診では母親からの質問や訴えが多く、多岐にわたり、その中には健康乳児にもみられるものが含まれている。この場合、健診に当たる医師や保健婦は、母親が納得するように説明し答えるべきである。ただ「心配ありません。」という答えは十分ではなく、健康なのになぜそうなるのかを説明しなくてはならない。

(2) 「目の前で手を動かすとそれを目で追いますか」(1ヵ月)、「寝がえりをしますか」(6ヵ月)、「ハイハイをしますか」(9ヵ月)は「いいえ」という解答が多い項目である。

(3) 寝がえりはDenverの発達テストと比較すると遅れていることが多い。

(4) ハイハイにはいろいろな型があり、母親のハイハイに対する認識も多様である。

(5) variant移動法では、歩行開始がおくれる傾向がある。

# 健診票

No. \_\_\_\_\_

区・市町村     
 保健所名

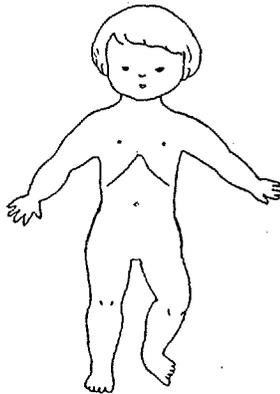
1歳6か月児健診票No.     健診日 昭和  年  月  日

担当医師 \_\_\_\_\_

氏名			男女	昭和	年	月	日生	年齢	1歳	か月
保護者			住所	区	市	町	丁目	電話	( )	
身体発育	出生時	身長 <input type="text"/> cm	男 45.8 cm 以下・54.6 cm 以上 女 45.5 cm 以下・53.9 cm 以上	体重 <input type="text"/> g	男 2,500 g 未満 4,000 g 以上 女 2,500 g 未満 4,000 g 以上	出生時の異常 無 不明 有 ( )				
	健診時	身長 <input type="text"/> cm	男 3パーセントイル以下 女 97パーセントイル以上	計測不能	体重 <input type="text"/> g	男 3パーセントイル以下 女 97パーセントイル以上	計測不能	問題 無 不明 有 ( )		
既往歴	無 不明 有	ひきつけ(熱なし、あり)、先股脱、それいヘルニア、心音の異常、意識障害や昏折を伴う外傷(部位)								
		外科手術 ( )、その他 ( )							予防接種既往歴(ポリオ・BCG) xの回	
受診前質問票	身体発育上の問題	-士+								
	食事栄養上の問題	-士+								
	精神・運動発達上の問題	-士+								
	その他の問題	-士+								

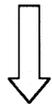
<診察所見>

チェック項目	問題の有無	所見
姿勢(体のバランスなど) 運動機能 歩行 手指の運動などの発達	正常	問題あり
ことば まね バイバイ	正常	問題あり
受診時 症状	1. 筋力的 2. 非筋力的(恐がる、泣く、取れる) 3. その他(無関心、視線が合わない)	

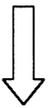


チェック項目	異常の有無	所見
頭部 大きさ・形 大泉門 発熱(色など)	なし 異常あり	
顔 顔貌(表情・反応)	なし 異常あり	
両 眼(対称、眼瞼、 視線の合い方)	なし 異常あり	
耳鼻口腔(口介、 口内炎など)	なし 異常あり	
頸部 リンパ節の 異常腫大など	なし 異常あり	
胸部 胸郭変形 心音(心雑音、 不整脈など) 呼吸音	なし 異常あり	
腹部 形状 肝臓 脾臓 腸ヘルニア	なし 異常あり	
泌尿生殖器 男 外生殖器異常 陰嚢等 陰嚢ヘルニア	なし 異常あり	
女 外生殖器異常 ヘルニアなど	なし 異常あり	
四肢 形態 (手の指、足の指など) 関節・筋緊張	なし 異常あり	
皮膚 色・緊張度 爪 湿疹・皮膚炎 アトピー傾向	なし 異常あり	

総合判定	問 題 -士+
指導区分	特になし、健診時指導(保育、栄養、心理、その他) 要経過観察、要相談、要治療、その他 ( )
指導内容・指示	
精密健診依頼先 および依頼内容	
事後指導	区・市町村または保健所で行う、専門医療施設紹介 ( ) 主治医で行う、その他 ( )
備考	



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



## 目的

乳児健診における母親の質問事項と、母子健康手帳(母子手帳と略す)の月齢別質問項目に対する解答を分析し、小児保健と乳児健診の実地に資することを目的とした。